



こんにちは

村田 けい子 です

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

2018.9.14
No 167

翁長県知事の意味を継ぐ 《13日告示 30日投票》 玉城デニー氏を県知事に 沖縄知事選 —新たな基地は作らせない。争点は民主主義—

玉城デニー氏
メッセージを寄せ



9月13日告示で沖縄県知事選挙が始まりました。辺野古への新基地建設を許さないという県民の強い意志を示す絶好のチャンスです。故翁長県知事の後には、「翁長知事のあらゆる意思を引き継いでいく」という玉城デニー氏が立候補しました。基地建設推進の自公維におかれた相手候補との一騎打ちの様相です。

台風21号・北海道大地震で被災されたみなさんに心よりお見舞い申し上げます。

告示日の前日、佐久市でも沖縄に連帯して「辺野古新基地ノー、『平和で誇りある豊かな沖縄』を」と題して、知事選を巡る情勢と新基地建設の現状についての報告が行われました。報告によれば

1、沖縄県が「埋め立て承認の撤回」をしたことにより、今は建設工事はストップしており、国側は、工事を進めるため、「工事方法の変更」が迫られ知事の許可がどうしても必要であり、この県知事選挙で県政を奪還して基地建設を推進したいという強い思いでいる事、つまり、**基地建設反対の知事が引き続き誕生すれば、工事はストップするというせめぎあいの選挙だ**ということがまず語られました。

2、翁長県知事の意味を受けて副知事がぶれずに「埋め立て承認の撤回」をしたのは、届け出の工事内容からかけはなれた違法工事が強行されていることが理由 とのことです。

①工事個所の順番を勝手に変え、浅瀬を埋めて工事用道路を海上につくり、既成事実を積み重ねて県民にあきらめさせようという姑息な手段に出たこと。

②大浦湾にコンクリートブロックの塊であるケーソンを入れようとして地盤調査をしたところ、水深30m以下から軟弱地盤が40mもつづき、地盤改良工事が必要となっていること。(マヨネーズ地盤といわれている) これが行われれば、計り知れない自然破壊となることは明らか。

③米国の法律では、滑走路周辺2.8kmは高さ55m以上の建物はあってはいけないとなっているが、実際にはNTTの鉄塔や学生寮など陸上部分にいくつも既存の建物があり、撤去や引っ越しが必要なこと。米国の法律で定められていることを日本では守られていない状況。

日本人の危険はどうでもいいということです。

基地は沖縄経済の障害に 跡地利用で経済活性化を

沖縄県では、これまで変換された基地跡地の経済効果を検証し、雇用効果は平均で72倍、直接経済効果は平均で28倍になっていることを検証。

玉城氏は引き続き子どもの貧困をなくし、経済活性化をすすめる事を公約しています。

また、7月27日の全国知事会議で決議した「米軍基地負担に関する提言」には、基地の縮小・撤去と日米地位協定の抜本見直しを要求しています。



残念なキノコ、
わが家の庭に
どっさりと

今週の
パチリ

肉厚で、裏がイグチ類のこのきのこ、傘と柄が赤く、ぬめりはなし、裏を触ると青黒く変色します。「ベニイグチ」の仲間らしいということが判ったが、食毒不明。裏の通路にたくさん出ている、食べられないのは、とても残念。でも夫が桜シメジ(赤ん坊)をどっさり獲ってきたので、おみそ汁に。



ふるさと交流館での発表

昨年からはまったタテシナソン、企業のお悩みを解決するために、学生たち若者が集まり、課題解決のアイデアを出し合うというイベント。今年は山浦木材さんの「大量にある在庫木材を使って利益を生み出すには・・・？」という課題でした。あちこちから応募した学生たちが3つのグループに分かれて28時間で立科町を歩き回り、どんな方法、商機があるのかを提案しました。

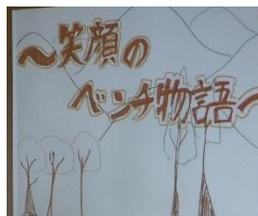
大量にある
在庫木材を使って
利益を生み出す
大作戦！



今回の「お題は」

あるグループは、芦田宿や間の宿にはベンチがないことに気が付き、在庫を利用してベンチを置くことを提案、その費用は企業から協賛金を集め、その名前をベンチに記すことで宣伝効果を狙うことを紙芝居を使ってストーリー仕立てで説得力あるプレゼンテーションを行いました。

別のグループは、山浦木材さんが豊富な種類の材木を持っていることに着目し、まず、仕事を休んでも材木リストを作ることを提案、それをホームページを作って公表することを第一にすることを提案。また、椅子を美術学校の学生のデザインで作る、届くまでどんな椅子が来るかわからないドキドキワクワクのプレゼント企画も提案しました。さらに、別のグループは立科町に大勢の中学生や小学生などが訪れることを知り、ワークショップで思い出の品（キーホルダーやストラップ、木のチップクッション、お酒を飲む杓づくり）などを提案。地域を案内する看板が少ないことも指摘し、看板づくりも提案。極めつけは、生前から自分のお棺をつくること、しかも上質の木材で前もって作っておくというものでした。少子高齢化の時代なので、たった一つのお棺を作るのもニーズがあるという指摘でした。学生たちの町を調査した上での提案は、斬新であり、また夢の持てるものだったと思います。



会場がどよめいた提案「お棺」

地域一丸となって燃えた町民運動会



9月9日、1時間遅れで始まった町民運動会、早朝より雑巾で水を吸い上げ、砂を入れて水たまりを無くし、トンボで鳴らしてグラウンドを整備された大勢の職員さんや役員さんたちのご努力で、何とか9時開始時間にはグラウンドが整備されました。

ムカデ競争や借り物競争、デカパンレース、綱引き、玉入れなど、力走が続き、保育園の園児たちによる風車を取りに行く競争もありました。

競技の合間には、集落ごとの応援合戦もあり、老若男女みんなが楽しんで、絆を深めた一日でした。



街かどから

フルーツグミ(ブセキグミ) 秋の装いに

農ん喜村においてある五無齋の飴物スイーツ、ブセキグミ、黄色い布、朱色のほおずき、松ぼっくりに竹トンボと秋の装いに衣替え。

いい場所にあるんだけど、売れ行きは今ひとつ。お土産にどうぞ、一箱350円。



稲刈が始まりサギたちの餌場に。

田んぼが黄色く色付き、稲刈もはじまりました。カエルやイナゴを目当てに驚たちも集団で田んぼに姿を現しています。秋の風物詩。カラーでないのが残念です。



寄贈 銚木伸吉さんの絵 2点

